

平成 23 年 1 月 13 日

各 位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第 146 回景気動向調査（10～12 月期）

**求められる「具体性・スピード・実行力」！先行き不透明感漂う中小企業！
製造業ついに売上・収益D I がプラスへ好転！7 期連続の改善へ！
苦悩する小売業！生き残れるか飲食業！**

求められる「具体性・スピード・実行力」！先行き不透明感漂う中小企業！

総合で売上D I はマイナス 11.2（前回は+9.3 ポイント）、収益D I はマイナス 14.2（前回は+7.5 ポイント）となりました。

業種別では、製造業では平成 20 年 6 月以来水面下にあった両D I が、ついにプラスに転じて 7 期連続の改善となり他業種を牽引しています。また他業種においてもエコポイント制度の縮小にともなう家電の駆込み需要や年末商戦の好影響もあり、売上D I ・収益D I とともに前回は大きく上昇しました。売上D I の回復は販売数量の増加が主な要因です。

しかし、回復状況からみると小売業・飲食業では回復ペースは鈍く苦戦を強いられています。平成 22 年 10-12 月期、中小企業の景況感は前回は回復しましたが、事業者は平成 23 年 1-3 月期には景況感に厳しい見通しを持っており、景気の先行き不透明感は色濃く漂っています。

設備投資意欲はこれまでと違ってやや上向き兆候があります。その兆候は特に、製造業・建設業・サービス業で見られます。設備投資の内容は「機械等の新設・増設・保守・更新」や「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が多く、資金調達方法は「全て自己資金」「全額借入する」「5 割以上借入する」が多く、これまで大半が「全て自己資金」であったことを考えると、積極的な設備投資意欲も一部には感じられます。しかし、設備投資意欲を牽引するには未だ力不足です。

製造業ではついに売上・収益D I がプラスへ好転！7 期連続の改善へ！

製造業では売上D I ・収益D I とともに 7 期連続の改善で、依然として全業種の中で景況感を牽引しています。しかし平成 23 年 1-3 月期は売上D I が 13.3 ポイント、収益D I が 14.5 ポイント悪化すると予想しています。大阪の鋼材価格の上昇が予想されるなか、今後収益の悪化が懸念されます。エコポイント制度縮小後、政府の景気対策効果が薄れるなか、事業者は新たな具体的景気対策の早急な実施を望んでいます。

苦悩する小売業！生き残れるか飲食業！

政府の景気対策の効果が薄れて景気回復が遅れるなか、消費者の将来へ向けての不安は募る一方で、財布の紐は依然固く、小売業を取巻く環境は厳しい状況にあります。

また飲食業は年末商戦を期に景況感はいくぶん回復しましたが、猛暑による野菜の高騰など材料仕入価格の上昇が収益に悪影響を及ぼし、今後も平年を上回る高値も予想され、収益への一層の悪影響が懸念されます。また大手チェーン店の攻勢はなお一層厳しさを増しており、飲食業の生き残りを賭けた戦いは当分続きます。

調査時点：平成 22 年 12 月上旬

対象期間：平成 22 年 10～12 月（実績） 平成 23 年 1～3 月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先 1,913 社（大阪府下、尼崎市）

回答企業数：1,424 社（回答率 74.4%）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

大阪信用金庫 経営企画部（担当：平山）

TEL：06-6772-1524 E-mail:keiki@osaka-shinkin.co.jp

URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>